

証券コード：6807

Technology to Inspire Innovation

航空電子

第77期中間報告書

平成18年4月1日から平成18年9月30日まで

C O N T E N T S

| | |
|------------|-----|
| 株主の皆様へ | 1,2 |
| 売上の概況（連結） | 3 |
| 事業トピックス | 4 |
| クローズアップ | 5,6 |
| 連結財務諸表 | 7,8 |
| 単独財務諸表 | 9 |
| 会社データ／株式情報 | 10 |



会長
篠崎雅美

社長
秋山保寿

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は格別のご支援を賜わり厚く御礼申し上げます。

ここに第77期中間期の営業の概況並びに中間決算の状況をご報告申し上げます。

2006年12月

上期として5年連続の増収・増益達成 将来に向けた積極的な設備投資継続



当中間期の業績

当社グループの関係する当中間期のエレクトロニクス関連機器業界は、ボリュームマーケットでありますノートPC・携帯電話の持続的な2桁成長、薄型TVの急速な市場拡大、工作機械・半導体製造関連装置等の好調な設備投資需要に支えられ堅調に推移しました。

反面、原油価格の高止まり、素材価格の高騰、更にグローバルベースでの生き残りをかけた激しい企業間競争、それに伴う市場価格の低下圧力の継続等、引き続き厳しい経営の舵取りが求められる経営環境でありました。

このような状況の中で、当中間期の連結業績は、好調なマーケットにフォーカスし、グローバルマーケティングと技術開発力の強化による強い新製品の投入効果でビジネスチャンスをつかみ取ったことにより、売上高は675億65百万円（前年同期比114%）の2桁成長、利益面では売上増、新製品投入効果並びに一貫生産体制増強投資による内製化拡大と『易しく、早く、安く、賢い』もの作り改革を両輪とするコストダウン効果等により、前述の厳しい事業環境の中で、経常利益54億45百万円（前年同期比136%）、中間純利益36億32百万円（前年同期比140%）とすることができました。これにより上期としては5年連続の増収・増益を達成することができました。



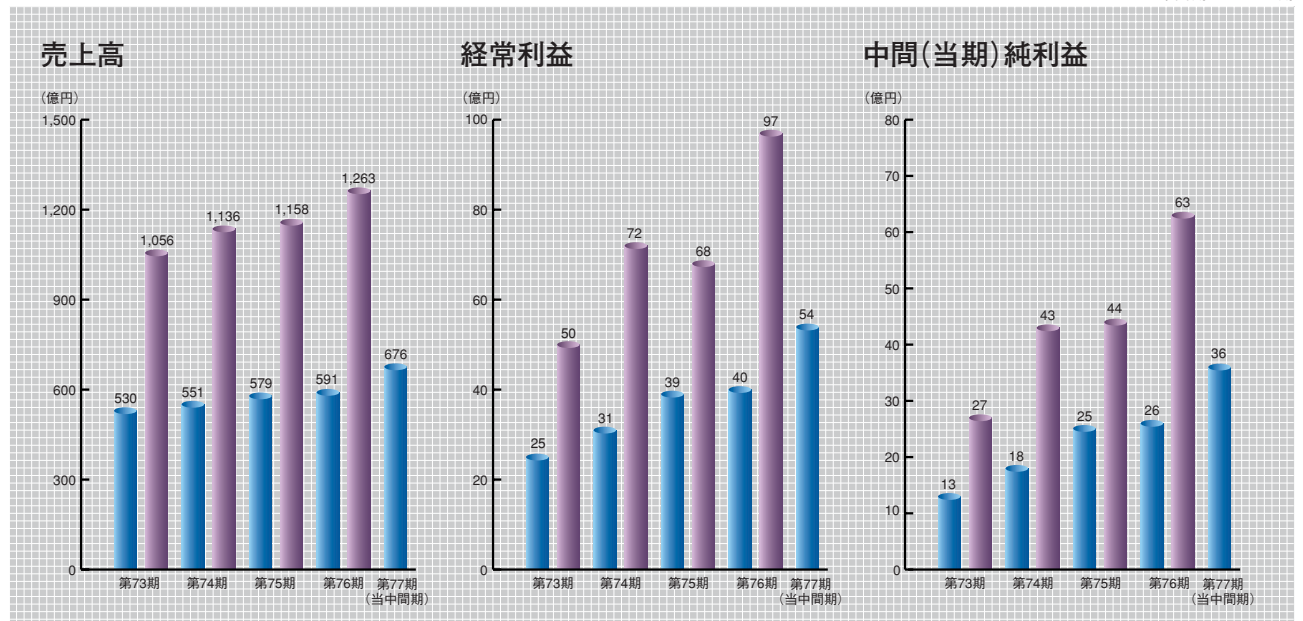
中間配当金を1円増配 1株につき5円に

当社グループは、当期業績の向上を重視する中で、中長期的な財務体質の改善を考慮しつつ株主の皆様に対する安定的な利益還元を行うことを経営の最重要課題の一つと考えております。当中間期は、昨年引き続き将来に向けた積極的な設備投資を行い、上期としては、過去最高の設備投資70億円を実行しました。

以上を受けて、当期の中間配当金につきましては、前年同期の1株につき4円から1円増配の1株につき5円とさせていただきますことといたしました。



決算ハイライト(連結)



今後について

下期は引き続き世界経済全体では明るい見通しに大きな変化はないと見ておりますが、懸念材料として世界経済の牽引役である米国経済の成長がスローダウンしてきたことに加え、引き続き原油価格や素材価格の動向、市場価格低下圧力、技術革新を伴った厳しい競争環境等、依然先行き予断を許さない状況を抱えております。そのような状況の中で、当社グループは新たな成長と飛躍を目指し、業績の向上と資産効率の向上に邁進する所存であります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

売上の概況(連結)

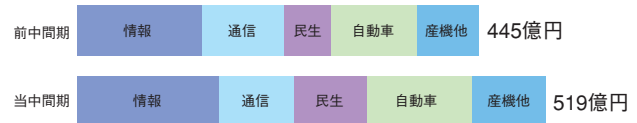
コネクタ事業及び航機事業が売上を牽引 海外は前年同期比120% 国内も前年同期比110%と健闘



コネクタ事業——薄型TV等マーケットの成長をキャッチし2桁伸長

コネクタ事業は、情報、民生、自動車、産業機器分野が牽引し、2桁成長を確保することができました。特に民生分野が前年同期比156%と急成長している薄型TV需要をキャッチ、国内、海外の主要TVメーカーで、当社の強みである高速伝送対応製品群の採用が拡がり、大きく伸長させることができました。これらを受け、当中間期の売上高は、519億24百万円(前年同期比117%)と2桁の伸長を図ることができました。

コネクタ事業売上推移



航機事業——産業機器ユニットの受注拡大により2桁伸長

航機事業は防衛・宇宙分野の官需用途の市場が縮小する中、アビエーションエレクトロニクス技術の民需展開に注力し、海外では原油価格高騰を受けた油田掘削分野の好調により加速度計やセンサパッケージを大きく伸ばすことができたほか、国内では半導体ステッパ等のマシナリ市場での売上伸長により、当中間期の売上高は、70億18百万円(前年同期比111%)と2桁の伸長を図ることができました。

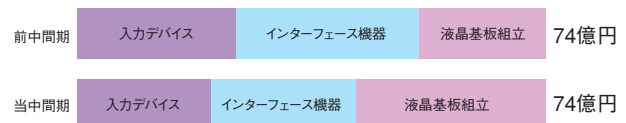
航機事業売上推移



システム機器事業——前年同期並みの売上を確保

インターフェース機器ユニット及び入力デバイスユニットは低調でしたが、軌道に乗り始めた中国での液晶基板組立事業が事業全体を牽引し、当中間期の売上高は、74億2百万円(前年同期比100%)を確保することができました。

システム機器事業売上推移

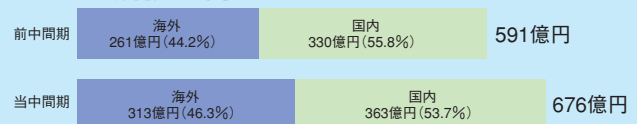


地域別売上高——海外のみならず国内でも売上伸長

当社グループの海外売上高は312億94百万円(前年同期比120%)と引き続き堅調に事業を拡大できました。

一方、このところ低調だった国内売上高も362億71百万円(前年同期比110%)と再び上昇軌道に乗せる弾みをつけることができました。

地域別売上高



国内外新工場の本格操業開始

一貫生産体制を増強し、内製化の拡大を図ることを目的として、昨年国内外でインフラ投資41億円を実施し、新工場を建設しましたが、これらの新工場が順次本格操業を開始しました。

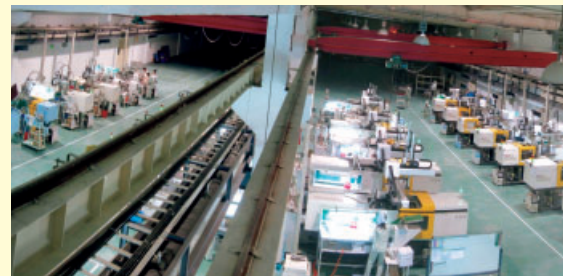
また、航機事業も産業機器分野の事業拡大に備えることと内製化による競争力強化を目指し、同事業の生産子会社である信州航空電子の増床をするため、今年4月より着工、9月に完成し、10月より操業を開始いたしました。



弘前航空電子新プレス工場(2005年10月～)



山形航空電子新プレス工場 (2006年4月～)



航空電子(無錫)[JAE Wuxi]新工場 (2006年3月～)



信州航空電子増築部分 (2006年10月～)

コーポレートスローガン改訂

—新スローガンを旗印に21世紀の豊かな社会づくりに貢献してまいります—

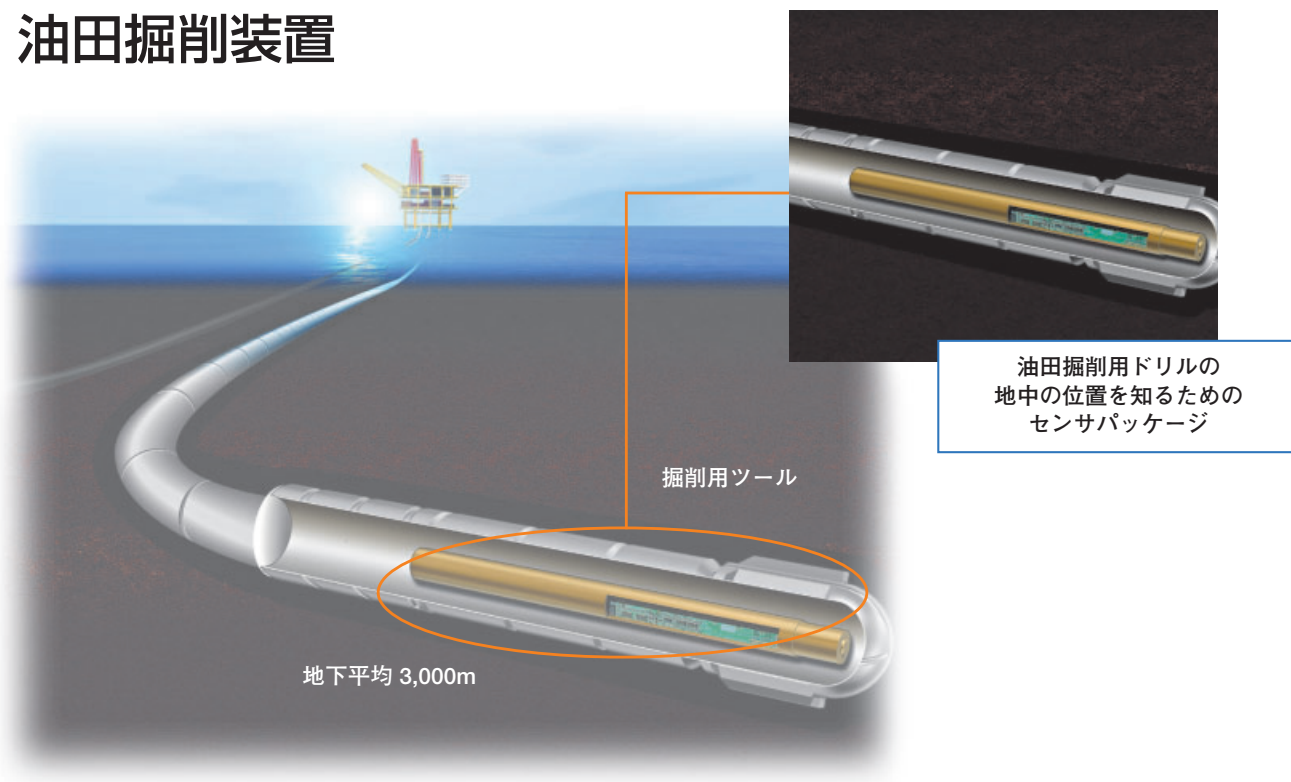
この新スローガンは、『当社の開発する技術が、お客様の独創的な商品開発に新しい扉を拓きます』という意味を持っています。航空電子グループのポジションステートメントである「革新的、創造性に富んだ高い開発力、技術力を強みに、エレクトロニクス関連業界におけるグローバルTOP企業様のベストデザインパートナーを目指す」を踏まえ、私たちの目指す方向を表現したものです。当社はこれを連結経営のスローガンとして21世紀の豊かな社会づくりに貢献してまいります。



当社の売上を牽引

当中間期は、大幅な需要増をキャッチしたコネクタ事業の薄型TV用コネクタ、原油価格高騰を受けた航機事業の油田掘削用ツール向けセンサパッケージが、当社の売上を牽引しました。

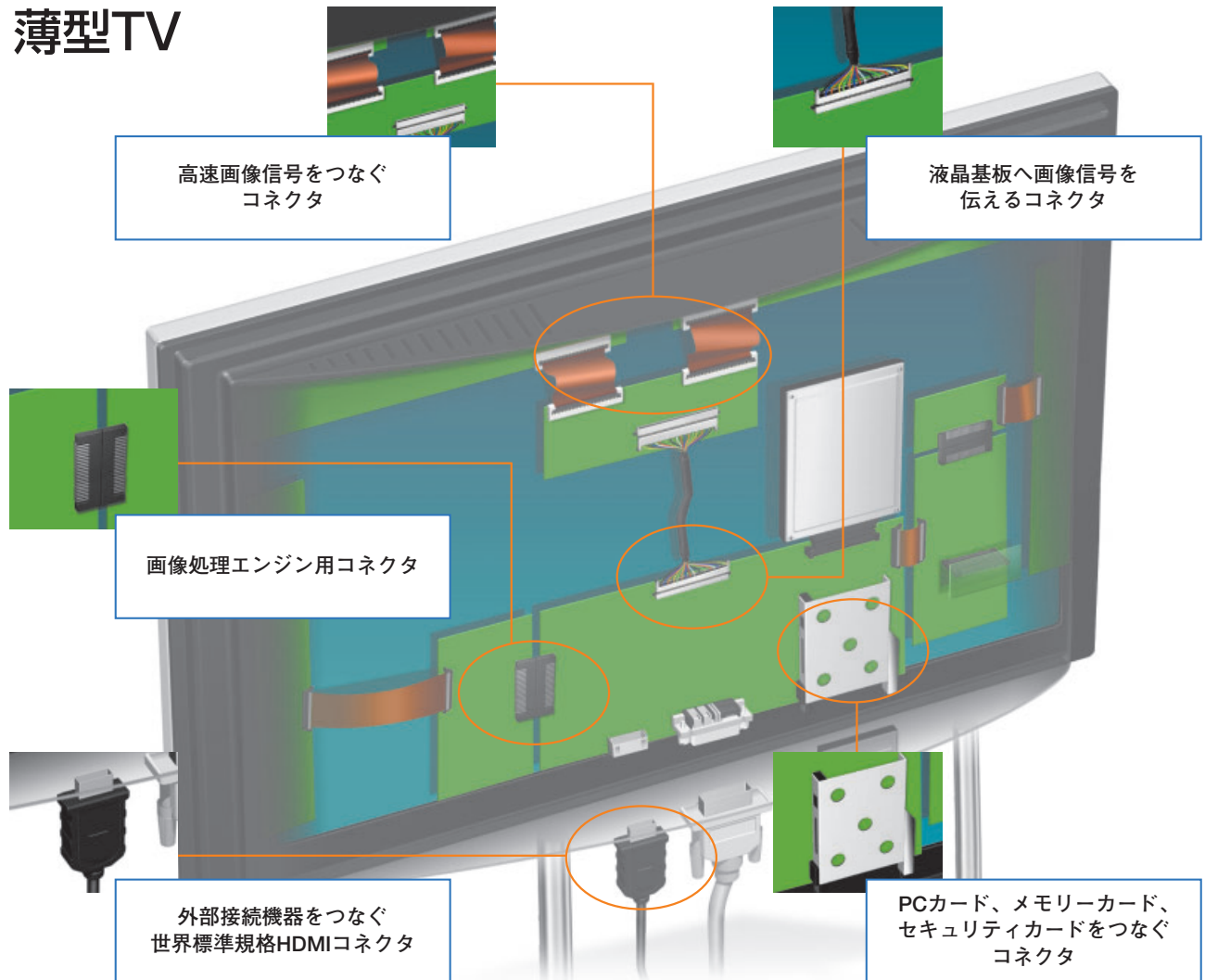
油田掘削装置



○で囲んでいる部分で使用されます。

した製品の活躍分野

薄型TV



連結財務諸表

連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

| | 当中間期 平成18年9月30日現在 | 前中間期 平成17年9月30日現在 | 前期 平成18年3月31日現在 | | 当中間期 平成18年9月30日現在 | 前中間期 平成17年9月30日現在 | 前期 平成18年3月31日現在 |
|-------------|----------------------|----------------------|--------------------|-------------|----------------------|----------------------|--------------------|
| 資産の部 | | | | 負債の部 | | | |
| 流動資産 | 62,876 | 58,279 | 61,246 | 流動負債 | 41,619 | 36,324 | 40,164 |
| 現金及び預金 | 17,748 | 18,195 | 18,687 | 支払手形及び買掛金 | 28,059 | 24,275 | 26,350 |
| 受取手形及び売掛金 | 24,808 | 21,960 | 23,300 | 短期借入金 | 3,733 | 3,695 | 3,763 |
| 棚卸資産 | 13,076 | 12,082 | 12,416 | 未払法人税等 | 1,861 | 1,825 | 2,974 |
| 繰延税金資産 | 1,673 | 1,734 | 1,620 | その他流動負債 | 7,964 | 6,527 | 7,075 |
| その他流動資産 | 5,688 | 4,425 | 5,334 | 固定負債 | 11,954 | 14,219 | 13,833 |
| 貸倒引当金 | △ 118 | △ 118 | △ 112 | 長期借入金 | 2,962 | 4,468 | 4,406 |
| 固定資産 | 46,120 | 40,244 | 45,003 | 退職給付引当金 | 8,572 | 9,066 | 8,966 |
| 有形固定資産 | 36,169 | 31,888 | 35,366 | その他固定負債 | 418 | 684 | 460 |
| 無形固定資産 | 1,845 | 1,812 | 1,811 | 負債合計 | 53,573 | 50,544 | 53,997 |
| 繰延税金資産 | 3,667 | 3,354 | 3,615 | | | | |
| その他固定資産 | 4,592 | 3,358 | 4,366 | | | | |
| 貸倒引当金 | △ 155 | △ 169 | △ 156 | | | | |
| 資産合計 | 108,996 | 98,523 | 106,250 | | | | |

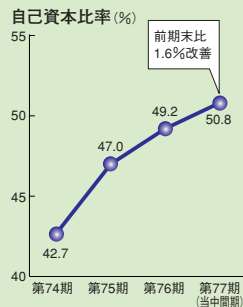
Point

◆「純資産の部」の新設について◆

会社法の施行に伴い財務諸表規則が改正され、当中間期より「資本の部」が「純資産の部」に変更となっております。これは、貸借対照表上、資産性をもつものを「資産の部」、負債性をもつものを「負債の部」に記載し、それらに該当しないものを資産と負債との差額として「純資産の部」に記載するものです。（単独財務諸表についても同様です。）

◆自己資本比率 当中間期50.8％に◆

自己資本比率は50.8％と前期末に比べ1.6％の改善を図ることができ、当面の目標としていた50％超を達成することができました。



自己資本比率：自己資本比率とは、総資産に対する自己資本の比率のことで、会社の財務的安全性を測る指標のひとつです。

自己資本比率＝（純資産合計－新株予約権）÷資産合計×100

Point

Point

| 純資産の部 | | | |
|--------------|----------------|---|---|
| 株主資本 | 55,261 | — | — |
| 資本金 | 10,690 | — | — |
| 資本剰余金 | 14,434 | — | — |
| 利益剰余金 | 30,673 | — | — |
| 自己株式 | △ 536 | — | — |
| 評価・換算差額等 | 155 | — | — |
| その他有価証券評価差額金 | 587 | — | — |
| 繰延ヘッジ損益 | △ 0 | — | — |
| 為替換算調整勘定 | △ 432 | — | — |
| 新株予約権 | 6 | — | — |
| 純資産合計 | 55,422 | — | — |
| 負債及び純資産合計 | 108,996 | — | — |

Point

| 資本の部 | | | |
|--------------|---|---------|---------|
| 資本金 | — | 10,690 | 10,690 |
| 資本剰余金 | — | 14,432 | 14,431 |
| 利益剰余金 | — | 24,282 | 27,577 |
| その他有価証券評価差額金 | — | 405 | 646 |
| 為替換算調整勘定 | — | △ 1,338 | △ 583 |
| 自己株式 | — | △ 491 | △ 510 |
| 資本合計 | — | 47,979 | 52,252 |
| 負債及び資本合計 | — | 98,523 | 106,250 |

連結損益計算書 (要旨)

(単位:百万円)

| | 当中間期 平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで | 前中間期 平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで | 前期 平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで |
|-----------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 売上高 | 67,565 | 59,111 | 126,253 |
| 売上原価 | 50,798 | 44,463 | 94,748 |
| 売上総利益 | 16,767 | 14,648 | 31,504 |
| 販売費及び一般管理費 | 10,608 | 10,070 | 20,488 |
| 営業利益 | 6,158 | 4,577 | 11,016 |
| 営業外収益 | 477 | 570 | 942 |
| 受取利息及び配当金 | 174 | 63 | 240 |
| その他営業外収益 | 303 | 506 | 701 |
| 営業外費用 | 1,191 | 1,145 | 2,254 |
| 支払利息 | 71 | 72 | 149 |
| その他営業外費用 | 1,120 | 1,073 | 2,105 |
| 経常利益 | 5,445 | 4,002 | 9,704 |
| 税金等調整前中間(当期)純利益 | 5,445 | 4,002 | 9,704 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 1,879 | 1,692 | 4,002 |
| 法人税等調整額 | △66 | △289 | △561 |
| 中間(当期)純利益 | 3,632 | 2,598 | 6,263 |

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位:百万円)

| | 当中間期 平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで | 前中間期 平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで | 前期 平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで |
|------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 6,321 | 5,902 | 15,925 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △5,351 | △4,395 | △13,789 |
| Point フリー・キャッシュ・フロー | 970 | 1,507 | 2,136 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △1,961 | △1,902 | △2,231 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 51 | 175 | 367 |
| 現金及び現金同等物の増加額又は減少額(△) | △938 | △219 | 272 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 18,687 | 18,311 | 18,311 |
| 新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額 | — | 103 | 103 |
| 現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高 | 17,748 | 18,195 | 18,687 |

◆フリー・キャッシュ・フロー 10億円のプラスを確保◆

Point

上期として過去最高の設備投資を実行しましたが、フリー・キャッシュ・フローは10億円のプラスを確保できました。

◆株主資本等変動計算書について◆

Point

会社法の施行に伴い財務諸表規則が改正され、当中間期より「株主資本等変動計算書」が新設されました。これは、連結貸借対照表の純資産の部の中で、主として株主の皆様へ帰属する株主資本について、その1会計期間における変動事由と変動額をご報告するために作成する計算書類です。(単独財務諸表についても同様です。)

連結株主資本等変動計算書 (要旨)

当中間期(平成18年4月1日から平成18年9月30日まで)

(単位:百万円)

| | 株主資本 | | | | | 評価・換算 差額等 | 新株予約権 | 純 資 産 計 |
|----------------------------|-------------|-----------------------|-----------------------|------------------|----------------------------|--------------|-------|------------------|
| | 資 本 金 | 資 本 剰 余 金 | 利 益 剰 余 金 | 自 己 株 式 | 株 主 資 本 計 合 | | | |
| 平成18年3月31日残高 | 10,690 | 14,431 | 27,577 | △510 | 52,189 | 63 | — | 52,252 |
| 中間期中の変動額 | | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | △458 | | △458 | | | △458 |
| 取締役賞与 | | | △78 | | △78 | | | △78 |
| 中間純利益 | | | 3,632 | | 3,632 | | | 3,632 |
| 自己株式の取得 | | | | △31 | △31 | | | △31 |
| 自己株式の処分 | | 2 | | 5 | 7 | | | 7 |
| 株主資本以外の項目の 中間期中の変動額(純額) | | | | | | 92 | 6 | 98 |
| 中間期中の変動額合計 | — | 2 | 3,095 | △26 | 3,071 | 92 | 6 | 3,170 |
| 平成18年9月30日残高 | 10,690 | 14,434 | 30,673 | △536 | 55,261 | 155 | 6 | 55,422 |

単独財務諸表

貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

| | 当中間期 平成18年9月30日現在 | 前中間期 平成17年9月30日現在 | 前期 平成18年3月31日現在 |
|--------------|----------------------|----------------------|--------------------|
| 資産の部 | | | |
| 流動資産 | 47,714 | 44,324 | 46,314 |
| 固定資産 | 34,585 | 32,193 | 34,729 |
| 資産合計 | 82,299 | 76,518 | 81,044 |
| 負債の部 | | | |
| 流動負債 | 28,125 | 24,839 | 27,132 |
| 固定負債 | 8,836 | 10,876 | 10,571 |
| 負債合計 | 36,962 | 35,715 | 37,703 |
| 純資産の部 | | | |
| 株主資本 | 44,771 | — | — |
| 資本金 | 10,690 | — | — |
| 資本剰余金 | 14,434 | — | — |
| 利益剰余金 | 20,183 | — | — |
| 自己株式 | △ 536 | — | — |
| 評価・換算差額等 | 559 | — | — |
| その他有価証券評価差額金 | 559 | — | — |
| 繰延ヘッジ損益 | △ 0 | — | — |
| 新株予約権 | 6 | — | — |
| 純資産合計 | 45,337 | — | — |
| 負債・純資産合計 | 82,299 | — | — |
| 資本の部 | | | |
| 資本金 | — | 10,690 | 10,690 |
| 資本剰余金 | — | 14,432 | 14,431 |
| 利益剰余金 | — | 15,791 | 18,118 |
| その他有価証券評価差額金 | — | 380 | 610 |
| 自己株式 | — | △ 491 | △ 510 |
| 資本合計 | — | 40,802 | 43,340 |
| 負債・資本合計 | — | 76,518 | 81,044 |

損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

| | 当中間期 平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで | 前中間期 平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで | 前期 平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで |
|-------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 売上高 | 53,140 | 46,416 | 98,870 |
| 売上原価 | 42,144 | 36,936 | 78,358 |
| 売上総利益 | 10,995 | 9,480 | 20,512 |
| 販売費及び一般管理費 | 7,363 | 7,282 | 14,584 |
| 営業利益 | 3,631 | 2,197 | 5,927 |
| 営業外収益 | 1,071 | 1,070 | 1,910 |
| 営業外費用 | 847 | 618 | 1,426 |
| 経常利益 | 3,856 | 2,649 | 6,411 |
| 税引前中間（当期）純利益 | 3,856 | 2,649 | 6,411 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 1,320 | 962 | 2,400 |
| 法人税等調整額 | △ 64 | △ 98 | △ 470 |
| 中間（当期）純利益 | 2,601 | 1,785 | 4,482 |
| Point 中間（当期）未処分利益 | — | 8,135 | 10,463 |

◆「未処分利益」の廃止について◆

会社法の施行に伴い財務諸表規則が改正され、期間中における剰余金の変動は、当中間期より「株主資本等変動計算書」で説明されるため、損益計算書の末尾の「未処分利益」の計算区分は廃止されました。

財務諸表の詳細につきましては、「EDINET」のWebサイト(<http://info.edinet.go.jp/EdiHtml/main.htm>)をご覧ください。なお、第77期半期報告書は12月中旬掲載予定です。

●閲覧方法

EDINETコード検索で「352077」を入力して検索してください。（推奨ブラウザやご利用条件等に関しては、EDINETの「推奨端末仕様」のページをご覧ください。）

株主資本等変動計算書（要旨）

当中間期（平成18年4月1日から平成18年9月30日まで）

（単位：百万円）

| | 株主資本 | | | | | 評価・換算 差額等 | 新株予約権 | 純資 産計 |
|----------------------------|--------|--------|--------|------|------------|--------------|-------|----------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | 株主資本 合計 | | | |
| 平成18年3月31日残高 | 10,690 | 14,431 | 18,118 | △510 | 42,730 | 610 | — | 43,340 |
| 中間期中の変動額 | | | | | | | | |
| 剰余金の配当（注） | | | △458 | | △458 | | | △458 |
| 取締役賞与（注） | | | △78 | | △78 | | | △78 |
| 中間純利益 | | | 2,601 | | 2,601 | | | 2,601 |
| 自己株式の取得 | | | | △31 | △31 | | | △31 |
| 自己株式の処分 | | 2 | | 5 | 7 | | | 7 |
| 株主資本以外の項目の 中間期中の変動額（純額） | | | | | | △50 | 6 | △44 |
| 中間期中の変動額合計 | — | 2 | 2,064 | △26 | 2,040 | △50 | 6 | 1,996 |
| 平成18年9月30日残高 | 10,690 | 14,434 | 20,183 | △536 | 44,771 | 559 | 6 | 45,337 |

（注）平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目です。

会社データ／株式情報

会社データ (平成18年9月30日現在)

■会社概要

| | |
|--------|--|
| 商号 | 日本航空電子工業株式会社 Japan Aviation Electronics Industry, Limited |
| 創業 | 昭和28年8月20日 |
| 従業員数 | 連結4,989名／単独1,697名 |
| 本社 | 〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1丁目21番2号 電話：03-3780-2711 |
| 営業部門 | 〒153-8539 東京都目黒区青葉台3丁目1番19号 |
| 昭島事業所 | 〒196-8555 東京都昭島市武蔵野3丁目1番1号 |
| 支店・営業所 | 大阪支店／中部支店／仙台営業所／ 宇都宮営業所／静岡営業所／福岡営業所 |

■役員

| | |
|----------------|----------------|
| 会長 (代表取締役) | 取締役 …… 星 勝敏 |
| …………… 篠崎 雅美 | 取締役 …… 河邊 夏樹 |
| 社長 (代表取締役) | 取締役 …… 武田 克明 |
| …………… 秋山 保孝 | 取締役 …… 高橋 康英 |
| 専務取締役 …… 増成 肇 | 取締役 …… 野呂瀨 昇 |
| 常務取締役 …… 堀江 和民 | 監査役 (常勤) 塩野 義雄 |
| 常務取締役 …… 島村 正人 | 監査役 (常勤) 兼八 健二 |
| 取締役 …… 長谷川 清 | 監査役 …… 梅澤 治為 |
| 取締役 …… 潟岡 泉 | 監査役 …… 中村 哲也 |
| 取締役 …… 玉置 隆志 | |

■航空電子グループ (*印は連結子会社)

国内グループ会社

弘前航空電子株式会社*／山形航空電子株式会社*／富士航空電子株式会社*／信州航空電子株式会社*／航空電子エンジニアリング株式会社／ニッコー・ロジスティクス株式会社*／ニッコー産業株式会社／ニッコーフーズ株式会社／JAE八紘株式会社*／弘前八紘株式会社

海外グループ会社

JAE Electronics, Inc.*／JAE Oregon, Inc.*／JAE Taiwan, Ltd.*／JAE Philippines, Inc.*／JAE Wuxi Co., Ltd.*／JAE Wujiang Co., Ltd.*／JAE Shanghai Co., Ltd.*／JAE Hong Kong, Ltd.*／JAE Singapore Pte Ltd.／JAE Korea, Inc.*／JAE Europe, Ltd.

株式情報 (平成18年9月30日現在)

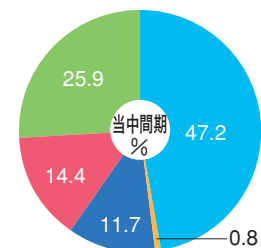
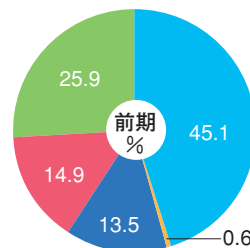
| | |
|-----------|-------------|
| ■発行済株式の総数 | 92,302,608株 |
| ■株主数 | 7,743名 |
| ■大株主 | |

| 株主名 | 当社への出資状況 | |
|--|------------|----------|
| | 持株数(株) | 議決権比率(%) |
| 日本電気株式会社 | 22,491,671 | 39.93 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 14,951,000 | 16.45 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (住友信託銀行再信託分・日本電気株式会社退職給付信託口) | 13,800,000 | — |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 5,851,000 | 6.44 |
| バンク オブ ニューヨーク ロッパ リミテッド ルクセンブルグ 131800 | 2,651,000 | 2.92 |
| 資産管理サービス信託銀行株式会社(信託B口) | 1,281,000 | 1.41 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4) | 868,000 | 0.96 |
| 住友生命保険相互会社(特別勘定) | 658,000 | 0.72 |
| バンクオブニューヨーク・ジェシーエムクライアントアカンツワイ・アイエスジ | 632,500 | 0.70 |
| 資産管理サービス信託銀行株式会社(年金特金口) | 563,000 | 0.62 |

(注) 1.日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(住友信託銀行再信託分・日本電気株式会社退職給付信託口)の持株数13,800,000株の議決権は、信託約款上、日本電気株式会社が留保しています。
2.当社は、自己株式603,652株を保有していますが、上記大株主からは除外しています。

■所有者別株式分布の状況

| | 株主数(名) | 持株数(株) | 持株数比率(%) |
|--------|--------|------------|----------|
| 金融機関 | 65 | 43,612,034 | 47.2 |
| 証券会社 | 43 | 742,016 | 0.8 |
| 外国法人等 | 100 | 10,768,425 | 11.7 |
| 個人その他 | 7,424 | 13,272,163 | 14.4 |
| その他の法人 | 111 | 23,907,970 | 25.9 |
| 合計 | 7,743 | 92,302,608 | 100.0 |



株主メモ

■事業年度

4月1日から翌年3月31日まで

■定時株主総会

6月（議決権基準日 3月31日）

■配当基準日

期末配当 3月31日

中間配当 9月30日

■株式事務取扱場所

株主名簿管理人

大阪市中央区北浜四丁目5番33号

住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番4号

住友信託銀行株式会社 証券代行部

同取次所

住友信託銀行株式会社 本店及び全国各支店

■公告方法

当社ホームページに掲載します。ただし、当社ホームページに掲載することができないときは、日本経済新聞に掲載して行います。

公告掲載URL <http://www.jae.co.jp>

■上場証券取引所

東京証券取引所 市場第一部

■証券コード 6807

株式事務手続きのご案内

当社の株式事務を取扱っております住友信託銀行では、株主の皆様
の住所変更、単元未満株式買取／買増請求、名義書換請求及び配当
金振込指定などの用紙のご請求を電話及びインターネットのホーム
ページで受付しておりますので、どうぞご利用ください。

■電話によるご請求・ご照会

住所変更等用紙のご請求 ☎ 0120-175-417

その他のご照会 ☎ 0120-176-417

■インターネットによるご請求

ホームページアドレス

<http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

（株券保管振替制度をご利用の方は、お取引のある証券会社へご照会ください。）

日本航空電子工業株式会社

〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-21-2 TEL.03-3780-2711

ホームページ（トップページ）<http://www.jae.co.jp>

（JAE Connector Search）<http://www.jae-connector.com>

株券の電子化（ペーパーレス化）について

当社を含む上場会社の株券電子化が、2009（平成21）年1月実施に向けて準備されています。電子化実施後は、これまでのように株主の皆様
の権利を株券で管理するのではなく、証券会社などの金融機関の取引口座で電
子的に管理することになります。

これにより電子化実施後は株券の効力は失われてしまいますので、
お手元（自宅、貸金庫等）に株券のある方は以下をご参照ください。

1. 株券の名義をご確認ください。

お手元の株券はご本人名義になっていますか？

➡ はい

ご本人の名義になっている場合は、株主の権利に影響はありません。

➡ いいえ

「名義書換」をしてください。

ご本人以外の名義になっている場合は、電子化により株主の権利を失うおそれがありますので、名義書換が必要です。名義書換については、お取引のある証券会社または当社の株主名簿管理人（住友信託銀行）にお問い合わせください。

2. 株券を証券会社を通じて証券保管振替機構（通称＝ほふり）にお預けいただくと、株券電子化実施後の売却を含め、よりスムーズに新制度に移行できますので、お早めに証券保管振替機構へお預けになることをお勧めいたします。なお、既に株券を証券保管振替機構にお預けの場合、特段のお手続きは必要ありません。

株券電子化の詳細につきましては、日本証券業協会までお問い合わせください。

日本証券業協会 証券決済制度改革推進センター
TEL 03-3667-4500（平日9:00～17:00）
ホームページ <http://www.kessaicenter.com>

※なお、単元未満株式を保有されている株主様につきましては、「単元未満株式買取請求および買増請求のご案内」を同封いたしましたので、この機会に単元未満株式を整理されるようお勧めいたします。



古紙パルプ配合率100%再生紙



環境に配慮した「大豆油インキ」を使用しています。